

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-27

学校名・団体名	南会津町立館岩小学校
HPアドレス	http://www.minamiaizu.gr.fks.ed.jp/?page_id=80
コース	学校支援
活動・研究テーマ	郷土愛を育み、地域住民の願いをつなぐ盆踊りの保存と継承
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>子どもたちは地域の宝であり、将来の地域の担い手である。平成23年3月11日の東日本大震災並びに平成27年9月の関東・東北豪雨災害により、本地区も甚大な被害を被った。小学校では毎年転出が続き、平成23年度に111名いた児童がわずか5年で50名と半減した。その影響で過疎化・高齢化は極端に進行し、地域の文化や伝統の存続が危ぶまれている。自分たちの住むふるさとのよさを実感する機会が震災以降は特に減った。そこで、子どもたちが、地域のよさや伝統文化である「館岩音頭」を学ぶことを通して、自分たちのふるさに誇りや希望を持って生活し、ひいては、将来にわたって豊かな人生を過ごせるようになることを大いに期待したい。また、自然や文化に親しむ経験とふるさを愛する気持ちを育てることで、被災地の復興と同時に、地域の担い手となる責任と自覚を促したい。それがひいては、自分という木が大地に根を張り、太い幹を作り、風雨にさらされても倒れない巨木へと成長する自分づくりへとつながるものと考えている。</p>	

1 活動時期と内容

① 7～10月 1・2年生 生活科「ふるさとのよさを発見しよう」

- ・上郷地区（地名の由来の巨石）探検、高杖方面（高原リゾート開発地区）探検、湯ノ花方面（共同温泉集落地区）探検など、地域のよさを見付ける校外学習を実施した。
- ・館岩の魅力地域の人にインタビューしたり、デジタルカメラで撮影したりした。
- ・聞き取った内容や発見した地域の魅力を、ポスターにしてまとめ掲示した。
- ・10月の学習発表会では、ふるさとのよさを劇にして、保護者や地域住民に発表した。

② 12月～3月 3年生 社会科・総合的な学習の時間 「地域の歴史や文化について学ぼう」

- ・11月前沢集落（重要伝統的建造物群保存地区）について調べ、探検した。また、地域の人から歴史や文化を学んだ。
- ・12月授業参観で「館岩音頭」の歌詞から、地域の文化や盆踊りの歴史を知った。
- ・1月「館岩音頭」の地域の先生を招聘し、歌、太鼓打ち、踊りをみんなで練習した。
- ・2月再度先生を招聘し、歌や踊りの実演をタブレットで録画し、映像として保存した。また、「館岩音頭」の文字が入った特製の法被を受け取った。
- ・3月授業参観で、保護者だけでなく、教えてくださった地域の先生方も招待し、成果を披露した。
- ・3月「館岩音頭」の映像をDVDに記録して、全家庭に配付する予定である。（HP活用も検討中）



2 成果や子どもたちへの効果等

○「館岩ならではの教育」をスローガンに、地域の自然・産業・文化等をテーマに、人・もの・ことと関わり合う活動を1年間積極的に行ってきた。低学年の生活科や3年生の社会科、総合的な学習の時間を使って、地域に出かけ、取材や体験活動を行いながら、ふるさとのよさを感じ取り、作文や劇にして地域住民へ発表してきた。地域を実際に探検し、五感を通して学ぶことで、多くの気づきを促すことができた。また、地域住民に積極的に話しかけ、地域の人から教えていただくことで、驚きや発見の連続であった。こうした取組のおかげで、授業参観や学習発表会において、児童は地域のよさを生き生きと意欲的に発表することができた。

○地域の祭りが消滅し、地区の盆踊りとして愛されてきた「館岩音頭」は、現在、小学校の運動会でのみ踊られている状況と聞き、自分たちが館岩地区の伝統文化である「館岩音頭」を守ろうとする意欲が高まった。「館岩音頭」の歌い手や踊り手を3回にわたって招聘し、地域住民の思いや願いを伝え聞きくことで、その願いをつなぐ心情を育てることができた。

○地域の先生から「館岩音頭」の歌、太鼓打ち、踊りの3つを教わると、児童は習得しようと、休み時間も使って進んで練習する姿が見られた。また、3回目には、地域の先生から、「館岩音頭」の文字が印刷された特製の法被を受け取ると、伝統文化を継承する担い手として責任と自覚が高まった。授業参観に行った発表会では、法被を着てこれまでの感謝を示そうと張り切って発表していた。

○撮影した写真や映像をDVDに保存し、各家庭に配付することで、学校だけでなく家庭でも繰り返し練習ができる。今年5月に行われる運動会では、地域住民とともに盛大に「館岩音頭」を踊ることができるだろう。また、様々な理由で地域を離れた方々が、館岩のよさを日本中どこからでも見てもらえるよう、子どもたちが撮影した写真や映像を発信し、場所や時間に制限されないインターネット学習へと広げることも可能である。

来年度もこうした一連の学習活動を通して、文化や伝統を保存し継承する気持ちを高め、被災地復興の原動力となる、将来の担い手として成長していくことを確信している。